

講義年月日	2003年11月12日 (水)
講演者	梁瀬 三千代氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター)
テーマ	慶應義塾大学三田メディアセンターにおける選書業務について
講義内容	<p>1.三田メディアセンターと本部 テクニカルサービスは、三田メディアセンターと本部とで業務分担を行っている。 ・三田メディアセンターでは、選書 / 請求記号付与 / データ整備等の業務を担当している。 ・本部では、発注受入支払業務や目録業務を担当している。</p> <p>2.予算の構成 図書館予算には図書費や図書資料費が含まれ、合計約3億8千万円(平成15年度)。 学部予算には文経法商や経商資料、学内助成金、予備費が含まれ、 合計約3億5千万円(平成15年度)。</p> <p>3.選定資料の種類 図書費としては、図書 / 雑誌(逐次刊行物) / 視聴覚資料 / 貴重書等を選定する。 図書資料費としては、各種データベース / 事務用図書 / 事務用雑誌 / リザーブ図書 / 院生図書を選定する。</p> <p>4.選定方法(誰がどう選ぶか) 教員は出版目録や書店カタログ、見計い等で選定している。 学生や院生は購入希望を通じてリクエストし、図書館員が購入の可否を判断する。 ・図書館員は見計いや書店カタログ、出版目録、Web等から選定している。 寄贈資料も選定する。大部なものには会議にはかることもある。 三田メディアセンターでは教育支援のための学術的な資料を中心に選書をしている。</p> <p>5.選定ツール 見計いは指定出版社や大学出版だけでなく、新書・古書・地方出版なども対象としている。 『これから出る本』『ウィークリー出版情報』は欠かさずチェックする。 書店出版カタログや書店出版目録、新聞(『図書新聞』『週刊読書人』)、 『出版ニュース』等にも目を通す。 書評誌は内容の確認に便利。灰色文献は『政府刊行物新聞』を使用。 インターネットではBookWebProやTRCを利用する。 (参考)各種委員会で選定する資料もある。 図書館図書選定委員会では高額資料やマイクロ資料について検討する。年4回実施。 資料選定評価委員会では雑誌やデータベースについて検討する。毎月1回実施。</p> <p>6.出版業界の動向 ・エルゼビアなど企業の統合・買収や取次店の倒産などの動きもあるので、 危機管理が必要であろう ・自費出版が増加している。 amazon.comで購入したこともあるが、事務手続きが煩雑なためほとんど利用していない。 ・学術書と比較し、ビジネス書をどの程度入れるのかについては引き続き課題である。</p>
感想	多様なツールを扱いながらも最新刊を押さえつつ、蔵書構築上ふさわしい資料を幅広く収集している様子を伺うことができた。パブリックサービスとテクニカルサービスがそれぞれフィードバックすることにより、お互いのサービスが相乗効果をもつことを実感した。
配付物	「慶應義塾大学三田メディアセンターにおける選書業務について」